

宮が遠邊の巢に
シロの卵だ

主の家に怒り

天の王
主の怒り、憤り

エリミヤ書

21 万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、「あなたがたの犠牲に燔祭の物を合わせて肉を食べるがよい。
 22 それはあなたがたの先祖をエジプトの地から導き出した日に、私は燔祭と犠牲とについて彼らに語ったこともなく、また命じたこともないからである。
 23 ただ私はこの戒めを彼らに与えて言った、「私の声に聞きしたがいなさい。そうすれば、私はあなたがたの神となり、あなたがたは私の民となる。私があなたがたに命じるすべての道を行って歩んで幸を得なさい」と。
 24 しかし彼らは聞き従わず、耳を傾けず、自分の悪い心の計りごとと強情にしたがって歩み、悪くなるばかりで、よくはならなかった。
 25 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、私は私のしもべである預言者たちを日々彼らにつかわした。
 26 しかし彼らは私に聞かず、耳を傾けないで強情になり、先祖たちにもまさって悪を行った。
 27 たといあなたがたが彼らにこのすべての言葉を語っても彼らは聞かない。また彼らと呼んでもあなたがたに答ええない。
 28 それゆえ、あなたはこう彼らに言わなければならぬ、「これはその神、主の声に聞き従わず、その戒めを受けられなかった国民である。真実はうせ、彼らの口から絶えた。
 29 あなたの髪の毛を切って捨てよ、裸の山の上に嘆きの声をあげよ。
 主が、お怒りになつて世の人を退け捨てられたからだ」。

1 主からエリミヤに臨んだ言葉はこうである。
 2 「主の家の門に立ち、その所で、この言葉をのべて言え、主を拜むために、この門をはいるユダのすべての人よ、主の言葉を聞け。
 3 万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、あなたがたの道とあなたがたの行いを改めるならば、私はあなたがたをこの所に住まわせる。
 4 あなたがたは、「これは主の神殿だ、主の神殿だ、主の神殿だ」という偽りの言葉を頼みとしてはならない。
 5 もしあなたがたが、まことに、その道と行いを改めて、互に公正を行ひ、
 6 寄留の他国人と、みなしごと、やめめをしえたげることなく、罪のない人の血をこの所に流すことなく、また、ほかの神々に従って自ら害をまねくことをしなないならば、
 7 私はあなたがたを、私が昔あなたがたの先祖に与えたこの地に永遠に住まわせる。
 8 見よ、あなたがたは偽りの言葉を頼みとしているが、それはむだである。
 9 あなたがたは盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、パアルに香をたき、あなたがたが以前には知らなかった他の神々に従いながら、
 10 私の名をもつて、となえられるこの家に来て私の前に立ち、「われわれは救われた」と言い、しかもすべてこれら憎むべきことを行うのは、どうしたことか。
 11 私の名をもつて、となえられるこの家が、あなたがたの目には盗賊の巣と見えるのか。私自身、そう見たと主は言われる。
 12 私が初めに私の名を置いた場所シロへ行き、わが民イスラエルの悪のために、私がその場所に対して行ったことを見よ。

13 主は言われる、今あなたがたはこれらのすべてのことを行つている。また私はあなたがたに、しきりに語つたけれども、あなたがたは聞かず、あなたがたを呼んだけれども答えなかった。
 14 それゆえ私はシロに対して行つたように、私の名をもつて、となえられるこの家にも行う。すなわちあなたがたが頼みとする所、私があなたがたと、あなたがたの先祖に与えたこの所に行う。
 15 そして私は、あなたがたのすべての兄弟、すなわちエフライムのすべての子孫を捨てたように、私の前からあなたがたをも捨てる。
 16 あなたはこの民のために折つてはならない。彼らのために嘆き、折つてはならない。また私に、とりなしをしてはならない。私はあなたを求め聞かない。
 17 あなたは彼らがユダの町々と、エルサレムのちまたでしていることを見ないのか。
 18 子どもらは、たきぎを集め、父たちは火をたき、女は粉をこね、パンを造つてこれを天后に供える。また彼らは他の神々の前に酒を注いで、私を怒らせる。
 19 主は言われる、彼らが怒らせるのは私なのか。自分たち自身ではないのか。そして自らうろたえている。
 20 それゆえ主なる神はこう言われる、見よ、私の怒りと憤りを、この所と、人と獣と、畑の木と、地の産物とに注ぐ。怒りは燃えて消えることがない」。

30 主は言われる、ユダの民は私の前に悪を行い、私の名をもつてとなえられる家に、憎むべき者を置いてそこを汚した。
 31 またベンヒノムの谷にあるトペテの高き所を築いて、むすこ娘を火に焼いた。私はそれを命じたことはなく、またそのようなことを考えたこともなかった。
 32 主は言われる、それゆえに見よ、その所をトペテ、またはベンヒノムの谷と呼ぶなさい、ほふりの谷と呼ぶ日が来る。それはほかに場所がないので、トペテに葬るからである。
 33 この民の死体は空の鳥と地の獣の食物となり、これを追い払う者もない。
 34 そのとき私はユダの町々とエルサレムのちまたに、喜びの声、楽しみの声、花婿の声、花嫁の声を絶やす。この地は荒れ果てるからである。

1 主は言われる、その時ユダの王たちの骨と、そのつかさたちの骨と、祭司たちの骨と、預言者たちの骨と、エルサレムに住む人々の骨は墓より掘り出されて、
 2 彼らの愛し、仕え、従い、求め、また拜んだ、日と月と天の衆群の前にさらされる。その骨は集める者も葬る者もなく、地のおもてに糞土のようになる。
 3 この悪しき民のうちの残つている残りの者はみな、私が追いやつた場所ので、生きることよりも死ぬことを願うようになる」と、万軍の主は言われる。

偶像一軒

偶像一民

偶像は神の汚

ベンヒノム 汚トペテ

主に肉がす 巢

改訂者と注釈
出工の時から肉がす

知恵ある国がやい

偽舌主を知り

5:26

9
2 ああ、私が荒野に、
隊商の宿を得ることができればよいのに。
そうすれば、私は民を離れて
去って行くことができる。
彼らはみな姦淫する者、
不信のともがらだからである。
3 彼らは弓をひくように、その舌を曲げる。
真実ではなく、偽りがこの地に強くなった。
彼らは悪より悪に進み、
また私を知らない、主は言われる。
4 あなたがたはおのおの隣りに気をつけよ。
どの兄弟をも信じてはならない。
兄弟はみな、押しつける者であり、
隣り人はみな、その隣り人を欺き、
5 人はみな、その隣り人を欺き、
真実を言う者はない。
彼らは自分の舌に偽りを言うことを教え、
悪を行い、疲れて悔い改めるいとまもなく、
6 したげに、しえたげを積み重ね、
偽りに偽りを積み重ね、
私を知ることが拒んでいると、主は言われる。
7 それゆえ万軍の主はこう言われる、
「見よ、私は彼らを濟かし、試みる。
このほか、わが民をどうすることができよう。
8 彼らの舌は殺す矢のようだ、
それは偽りを言う。
その口ではおのおの隣り人におだやかに語るが、
その心では彼を待ち伏せる計りごとを立てる。
9 主は言われる、これらのことのために、
私が彼らを罰しないだろうか。
私がこのような民にあだを返さないだろうか。
10 山のために泣き叫び、野の牧場のために悲しめ。
これらは荒れすたれて、通り過ぎる人もない。
ここには牛、羊の鳴く声も聞えず、
空の鳥も獣も皆逃げ去った。
11 私はエルサレムを荒塚とし、山犬の巢とする。
またユダの町々を荒して、住む人もない所とする」。

12 知恵があつて、これを悟ることのできる人はだれか。主
の口の言葉をうけて、それを示す人はだれか。この地
が滅ぼされて荒野のようになり、通り過ぎる人もなく
なったのはどういふわけか。
13 主は言われる、「それは彼らの前に私が立てたおきてを
彼らが捨てて、私の声に聞き従わず、そのとおりに歩
かなかつたからである。
14 彼らは強情に自分の心に従い、また先祖の教えたように
バアルに従つた。
15 それゆえ万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、見
よ、私はこの民に、にがよもぎを食へさせ、毒の水を
飲ませ、
16 彼らも、その先祖たちも知らなかつた国びとのうちに彼
らを散らし、また彼らを滅ぼし尽すまで、そのうしろ
に、つるぎをつかわす」。

9:1 ←

泣き声の女

嘆きの声

嘆き

9
17 万軍の主はこう言われる、
「よく考えて、泣き女を呼べ。
また人をつかわして巧みな女を招け。
18 彼らに急いでこさせ、
われわれのために泣き悲しませて、
われわれの目に涙をこぼさせ、
まぶたから水をあふれさせよ。
19 シオンから悲しみの声が聞える。
それは言う、「ああ、われわれは滅ぼされ、
いたく、はずかしめられる。
われわれはその地を去り、
彼らがわれわれのすみかをこわしたからだ」。
20 女たちよ、主の言葉を聞け。
あなたがたの娘に悲しみの歌を教え、
あなたがたの隣りに哀悼の歌を教えよ。
おのおのその隣りに哀悼の歌を教えよ。
21 死がわれわれの窓に上つて来、
われわれの邸宅の中にはいり、
ちまたにいる子どもらを絶やし、
広場にいる若い人たちを殺そうとしているからだ。
22 あなたはこう言いなさい、
「主は言われる、「人の死体が糞土のように、
野に倒れているようになり、
また刈入れする人のうしろに残つて、
だれも集めることをしない束のようになる」」。

23 主はこう言われる、「知恵ある人はその知恵を誇つては
ならない。力ある人はその力を誇つてはならない。富
める者はその富を誇つてはならない。
24 誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さどくあつて、私
を知っていること、私が主であつて、地に、いつくし
みと公平と正義を行つている者であることを知ること
がそれである。私はこれらの事を喜ぶと、主は言われ
る」。
25 主は言われる、「見よ、このような日が来る。その日に
は、割礼をうけても、心に割礼をうけていないすべて
の人を私は罰する。
26 エジプト、ユダ、エドム、アンモンの人々、モアブ、お
よび野にいて、髪の毛のすみずみをそる人々はそれで
ある。これらの国びとはみな割礼をうけていない者で
あり、イスラエルの全家もみな心に割礼をうけていな
い者である」。

死体が糞土の束

恥 → 嘆き

心に割礼なし

17:21-1:31
22:1-10:17



偽平和 恥じむことなし

悔改めす 知恵乳

6:12-15

傷一民

8

4 あなたは彼らに言わなければならぬ。
主はこう仰せられる、
人は倒れたならば、また起きあがらないであろうか。
離れていったならば、帰つてこないであろうか。
5 それにどうしてこの民は、
常にそむいて離れていくのか。
彼らは偽りを固くとらえて、
帰つてくることを拒んでいる。
6 私は氣をつけて聞いたが、
彼らは正しくは語らなかつた。
その悪を悔いて、
「私のした事は何か」という者はひとりもない。
彼らはみな戦場に、はせ入る馬のように、
自分のすきな道に向かう。
7 空のこのとりでもその時を知り、
山はとと、つばめと、つるはその来る時を守る。
しかしわが民は主のおきてを知らない。

8 どうしてあなたがたは、「われわれには知恵がある、
主のおきてがある」と言うことができようか。
見よ、まことに書記の偽りの筆が
これを偽りにしたのだ。
9 知恵ある者は、はずかしめられ、
あわてふためき、捕えられる。
見よ、彼らは主の言葉を捨てた、
彼らになんの知恵があらうか。

10 それゆえ、私は彼らの妻を他人に与え、
その畑を征服者に与える。
それは彼らが小さい者から大きい者にいたるまで、
みな不正な利をむさばり、
預言者から祭司にいたるまで、
みな偽りを行つていたからである。
11 彼らは手輕に、私の民の傷をいやし、
平安がないのに、「平安、平安」と言つてゐる。
12 彼らは憎むべきことをして、恥じたであらうか。
すこしも恥ずかしいとは思わず、
また恥じること知らなかつた。
それゆえ彼らは倒れる者と共に倒れる。
私が彼らを罰するとき、
彼らは倒れると、主は言われる。

民の娘の傷

偽平和 主が滅ぼす

8

13 主は言われる、私が集めようと思ふとき、
ぶどうの木にぶどうはなく、
いちじくの木に、いちじくはなく、
葉さえ、しぼんでいる。
私が彼らに与えたものも、
彼らを離れて、うせ去つた。
14 どうしてわれわれはなす事もなく座しているのか。
集まつて、堅固な町にはいり、
そこでわれわれは滅びよう。
われわれが主に罪を犯したので、
われわれの神、主がわれわれを滅ぼそうとして、
毒の水を飲ませられるのだ。
15 われわれは平安を望んだが、良い事はこなかつた。
いやされる時を望んだが、かえつて恐怖が来た。
16 「彼らの馬のいななきはダンから聞えてくる。
彼らの強い馬の聲によつて全地は震う。
彼らは来て、この地と、ここにあるすべてのもの、
町と、そのうちに住む者とを食い滅ぼす。
17 見よ、魔法をもつてならすことのできない、
へびや、まむしをあなたがたのうちにつかわす。
それはあなたがたをかむ」と主は言われる。

18 わが嘆きはいやしめがたく、
わが心はうちに悩む。
19 聞け、地の全面から、
わが民の娘の聲があがるのを。
「主はシオンにおられないのか、
シオンの王はそのうちにおられないのか」。
「なぜ彼らはその彫像と、
異邦の偶像とをもつて、私を怒らせたのか」。
20 「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終つた、
しかしわれわれはまだ救われぬ」。
21 わが民の娘の傷によつて、わが心は痛む。
私は嘆き、うろたえる。
22 ギレアデに乳香があるではないか。
その所に医者があるではないか。
それにどうしてわが民の娘は
いやされることがないのか。

9

1 ああ、私の頭が水となり、
私の目が涙の泉となればよいのに。
そうすれば、私は民の娘の殺された者のために
昼も夜も嘆くことができる。

シオン → 民の傷
平和乳



偶像 vs 創造主

1 イスラエルの家よ、主のあなたがたに語られる言葉を聞け。
 2 主はこう言われる、「異邦の人の道に習ってはならない。
 また異邦の人が天に現れるしるしを恐れても、あなたがたはそれを恐れてはならない。
 3 異邦の民のならわしはむなしだからだ。
 彼らの崇拜するものは、林から切りだした木で、木工の手で、おのをもつて造つたものだ。
 4 人々は銀や金をもつて、それを飾り、くぎと鋸をもつて動かさないようにそれをとめる。
 5 その偶像は、きゆうり畑のかかしのようで、ものを言うことができない。
 歩くこともできないから、人に運んでもらわなければならない。
 それを恐れるに及ばない。
 それは災をくだすことができず、また幸をくだす力もないからだ」。
 6 主よ、あなたに並びうる者はありません。
 あなたは大いなる者であり、あなたの名もその力のために大いなるものであります。
 7 万国の王であるあなたを、恐れない者がありませんか。
 あなたを恐れるのは当然のことです。
 万国のすべての知恵ある者のうちにも、その国々のうちにも、あなたに並びうる者はありません。
 8 彼らは皆、愚かで鈍く、偶像の教は、ただ木にすぎない。
 9 銅はくはタルシシから渡来し、金はウバズから携えてくる。
 これらは工人と金細工人の工作である。
 彼らの着物はすみれ色と紫色である。
 これらはみな巧みな細工人の作つた物である。
 10 しかし主はまことの神である。
 生きた神であり、永遠の王である。
 その怒りによって地は震うべき、万国はその憤りに当ることができない。
 11 あなたがたは彼らに、こう言わなければならない、「天地を造らなかつた神々は地のうへ、天の下から滅び去る」と。

町、滅び

創造主の知恵

12 主はその力をもつて地を造り、その知恵をもつて世界を建て、その悟りをもつて天をのべられた。
 13 彼が声を出されると、天に多くの水のざわめきがあり、また地の果から露を立ちあがらせられる。
 彼は雨のために、いなびかりをおこし、その倉から風を取り出される。
 14 すべての人は愚かで知恵がなく、すべての金細工人は、その造つた偶像のために恥をこうむる。
 その偶像は偽り物で、そのうちに息がないからだ。
 15 これらは、むなしのもので、迷いのわざである。
 罰せられる時に滅びるものである。
 16 ヤコブの分である彼はこのようなものではない。
 彼は万物の造り主だからである。
 イスラエルは彼の嗣業としての部族である。
 17 囲みの中における者よ、彼の名を万軍の主という。
 18 あなたを地から取り上げよ。
 18 主がこう言われるからだ、「見よ、私はこのたび、この地に住む者を投げ捨てる。かつ彼らをせめなやまして、思い知らせる」。
 19 私はいたでをうけた、ああ、わざわざいなるかな、私の傷は重い。
 しかし私は言った、「まことに、これは悩みである。
 私はこれを忍ばなければならない」と。
 20 私の天幕は破れ、綱はことごとく切れ、子どもたちは私を捨てて行って、いなくなつた。
 もはや私の天幕を張る者はなく、幕を掛ける者もない。
 21 牧者は愚かであつて、主に問うことをしないからである。
 それゆえ彼らは榮えることもなく、その群れはみな散り去つていく。
 22 聞けよ、うわさのあるのを。
 見よ、北の国から大いなる騒ぎが来る。
 これはユダの町々を荒して山犬の巢とする。
 23 主よ、私は知っています、人の道は自身によるのではなく、歩む人が、その歩みを自分で決めることのできないことを。
 24 主よ、私を懲らしてください。
 正しい道にしたがつて、怒らずに懲らしてください。
 さもないと、私は無に帰してしまふでしょう。
 25 あなたを知らない国民と、あなたの名をとれない人々に、あなたの怒りを注いでください。
 彼らはヤコブを食い尽し、これを食い尽して滅ぼし、そのすみかを荒したからです。

創造主と偶像



契約のことはおぼろしい
31: 33:

主の31 - 民

契約を破る

主の31 - 町

主の家を災い

11

1 主からエレミヤに臨んだ言葉は言う、
 2 「この契約の言葉を聞き、ユダの人々とエルサレムに住む者に告げよ。
 3 彼らに言え、イスラエルの神、主はこう仰せられる、この契約の言葉に従わない人は、のろわれる。
 4 この契約は、私があなたがたの先祖をエジプトの地、鉄のかまどの中から導き出した時に、彼らに命じたところのものである。すなわち、その時私は彼らに言った、私の声を聞き、あなたがたに命じるすべてのことを行うならば、あなたがたは私の民となり、私はあなたがたの神となる。
 5 そして、私があなたがたの先祖に、乳と蜜との流れる地を与えると誓ったことを、なし遂げると。すなわち今日のおりである」。その時私は、「主よ、仰せのとおりです」と答えた。
 6 主は私に言われた、「このすべての言葉を、ユダの町々と、エルサレムのちまたに告げ示し、この契約の言葉を聞き、これを行え、と言いなさい。
 7 私は、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出した時から今日にいたるまで、おごそかに彼らを戒め、絶えず戒めて、私の声に従うようにと言った。
 8 しかし彼らは従わず、その耳を傾けず、おごの自分の悪い強情な心に従って歩んだ。それゆえ、私はこの契約の言葉をもって彼らを責めた。これは私が彼らに行えと命じたが、行わなかったものである。
 9 主はまた私に言われた、「ユダの人々とエルサレムに住む者のうちに反逆の事がある。
 10 彼らは、私の言葉を聞くことを拒んだその先祖たちの罪に立ち返り、またほかの神々に従ってそれに仕えた。イスラエルの家とユダの家とは、私がその先祖たちと結んだ契約を破った。

故郷に受け入れられる

11

11 それゆえ主はこう言われる、見よ、私は災を彼らの上に下す。彼らはそれを免れることはできない。彼らが私を呼んでも、私は聞かない。
 12 ユダの町々とエルサレムに住む者は、行って、自分たちがそれに香をたいている神々に呼び求めるが、これらは、彼らの災の時にも決して彼らを救うことはできない。
 13 ユダよ、あなたの神々は、あなたの町の数ほど多くなつた。またあなたがたはエルサレムのちまたの数ほどの祭壇を恥ずべき者のために立てた。すなわちパアルに香をたくための祭壇である。
 14 それゆえ、この民のために祈ってはならない。また彼らのために泣き、あるいは折り求めてはならない。彼らがその災の時に、私に呼ばわっても、私は彼らに聞くことをしないからだ。
 15 わが愛する者は、私の家で何をするのか。すでにこれは悪事を行った。誓願と犠牲の肉とがあなたに災を免れさせることができるであろうか。それであなたは喜ぶことができるであろうか。
 16 主はあなたを、かつては「良い実のなる美しい青々としたオリブの木」と呼ばれたが、激しい暴風のとどろぎと共に、主はそれに火をかけ、その枝を焼き払われるのである。
 17 あなたを植えた万軍の主は、あなたに向かつて災を言い渡された。これはイスラエルの家とユダの家とが悪を行い、パアルに香をたいて、私を怒らせたからである。
 18 主が知らせてくださったので、私はそれを知った。
 19 その時、あなたは彼らの悪しきわざを私に示された。
 20 しかし私は、ほふられに行く、おとなしい小羊のようで、彼らが私を害しようとして、計りごとをめぐらしているの知らなかった。彼らは言う、「さあ、木とその実を共に滅ぼそう。生ける者の地から彼を絶つて、その名を人に忘れさせよう」。
 21 正しいさばきをし、人の心と想いを探られる万軍の主よ、私は自分の訴えをあなたにお任せしました。あなたが彼らにあだをかえされるのを見させてください。
 22 それゆえ主はアナトテの人々についてこう言われる、彼らはあなたの命を取ろうと求めて言う、「主の名によつて預言してはならない。それをするならば、あなたはわれわれの手にかかつて死ぬであろう」。
 23 それで万軍の主はこう言われる、「見よ、私は彼らを罰する。若い人はつるぎで死に、彼らのむすこ娘は、ききんで死に、
 24 だれも残る者はない。私がアナトテの人々に災を下し、彼らを罰する年をこさせるからである」。

故郷に受け入れられる

わざわい



裏切者とそばいてなさい

12

兄弟争い

1 主よ、私があなたと論じ争う時、あなたは常に正しい。
 しかしなお、私はあなたの前に、さばきのことを論じてみたい。
 悪人の道がさかえ、
 不信実な者がみな繁栄するのはなにゆえですか。
 2 あなたが彼らを植えられたので、
 彼らは根つき、育つて、実を結びます。
 彼らは口ではあなたに近づきますが、
 心はあなたから遠ざかっています。
 3 主よ、あなたは私を知り、私を見、
 私の心があなたに対して
 いかにあるかを試みられます。
 ほふるために羊を引き出すように、
 彼らを引き出し、
 殺す日にそなえて、彼らを残しておいてください。
 4 いつまで、この地は嘆き、
 どの畑の野菜も枯れていてよいでしょうか。
 この地に住む者の悪によつて、
 獣と鳥は滅びうせませす。
 人々は言いました、
 「彼はわれわれの終りを見ることはない」と。
 5 「もしあなたが、徒歩の人と競争して疲れるなら、
 どうして騎馬の人と競うことができようか。
 もし安全な地で、あなたが倒れるなら、
 ヨルダンの密林では、どうするつもりか。
 6 あなたの兄弟たち、あなたの父の家のものさえ、
 あなたを欺き、大声をあげて、あなたを追っている。
 彼らが親しげにあなたに語ることがあつても、
 彼らを信じてはならない。」

12

7 「私はわが家を離れ、わが嗣業を捨て、
 わが魂の愛する者を敵の手に渡した。
 8 私の嗣業は、私にとつて
 林の中のししのようになった。
 これは私に向かつてその声をあげる。
 それゆえ私はこれを憎む。
 9 私の嗣業は、私にとつて、
 斑点のある猛禽のようではないか。
 他の猛禽がこれを困んでいるではないか。
 行つて、野の獣をみな集め、
 連れてきてこれを食べさせよ。
 10 多くの牧者たちは私のぶどう畑を滅ぼし、
 私の地を踏み荒した。
 私の麗しい地を荒れた野にした。
 11 彼らはこれを荒地としてしまった。
 その荒地が私に向かつて嘆くのだ。
 全地は荒地にされた。
 しかし、ひとりもこれを心に留める者はない。
 12 滅ぼす者どもが荒野のすべての、はげ山の上に来た。
 主のつるぎが、地の、この果から、かの果までを滅ぼすのだ。
 命あるものは安らかであることができない。
 13 彼らは麦をまいて、いばらを刈り取る。
 苦勞してもなんの利益もない。
 彼らはその収穫を恥じるようになる。
 14 私がわが民イスラエルにつがせた嗣業に手を触れるすべ
 の悪い隣り人について、主はこう言われる、「見
 よ、私は彼らとその地から抜き出し、ユダの家を彼ら
 のうちから抜き出す。
 15 私は、彼らを抜き出したのちに、また彼らをあわれん
 で、それぞれその嗣業に導き返し、おのおのを、その
 地に帰らせる。
 16 もし彼らが私の民の道を学び、私の名によつて、
 「主は生きておられる」と言つて誓うことが、かつて彼らが
 私の民に教えて、パアルをさして誓わせたようになるな
 らば、彼らは私の民のうちに建てられる。
 17 しかし耳をかきかない民があるときは、私はその民を抜き
 出して滅ぼすと、主は言われる。」

根絶荒地が荒野に

町 - 荒地

裏切者 → 荒地

